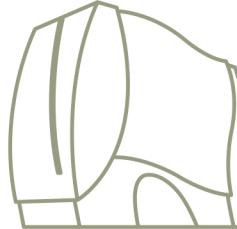


# REPORT

S o m p o M u s e u m



# 2022

o f A r t

SOMPO美術館は新館に移転してから3年目を迎え、コロナ禍の中、安全対策を講じながら予定どおりの展覧会を開催いたしました。春は「シダネルとマルタン展」、夏・秋は「スイス プチ・パレ美術館展」、秋・冬は「おいしいボタニカル・アート」展、年度末には「FACE展2023」を開催し、西新宿の街並みに美術館の存在が定着しつつあります。

美術館入口、外壁フォトスポット



## 【展覧会データ】

展覧会名 | シダネルとマルタン展

—最後の印象派、二大巨匠—

会期 | 2022年3月26日(土)～6月26日(日)

主催 | SOMPO美術館、朝日新聞社

協賛 | 損保ジャパン

後援 | 在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、新宿区

協力 | 日本航空

企画協力 | ブレントラスト

## シダネルとマルタン展 —最後の印象派、二大巨匠—

18

70年代のパリに登場し、西洋近代絵画史上に大きな転換をもたらした印象派。筆触分割と明るい色彩によるその革新的な表現は、その後、どのように継承されていったのでしょうか。「最後の印象派」と呼ばれた二人の画家、アンリ・ル・シダネル(1862-1939)とアンリ・マルタン(1860-1943)が展開した独自の絵画世界が、“印象派のその後”的のあり方を示していると言えるでしょう。本展は、本国フランスを中心とする欧洲から来日した約70点の油彩・素描・版画

によって二人の画業をご紹介する、国内初の試みとなりました。

印象派を基盤とし、象徴主義をはじめ同時代の表現を吸収して独自の画風を作り上げていった二人は、幻想的な主題、牧歌的な風景、身近な人々や情景を、親密な情感を込めて描いたことで知られています。本展では多岐にわたる彼らの作品と活動を、緩やかな年代順に沿って9章構成で辿りました。とりわけ中盤の第4章では、数々の油彩習作を通じて、マルタンの壁画家としての活動や日本では馴染みのない公共建築の壁画というテーマを扱い、他方で、

ジエルブロワ時代のシダネルを取り上げた第5章では、画家の代名詞とも言える「食卓シリーズ」が多くの来館者を魅了しました。同世代の二人は、深い友情と同じ芸術観で結ばれながらも、それぞれの活動拠点に由来して、異なる光の表現—北仏のシダネルは霞がかった柔らかな光、南仏のマルタンは眩い光—を追求しましたが、その違いは交互に並んだ両者の作品を見比べることで、より一層明らかとなりました。本展



アンリ・ル・シダネル《ジエルブロワ、テラスの食卓》  
1930年 油彩・カンヴァス 100×81cm フランス、個人蔵  
© Luc Paris

は、ベル・エポック期のパリ画壇の中心にいた知られざる二人の足跡を日本で本格的にご紹介する、意義深い展覧会となりました。



アンリ・マルタン《二番草》  
1910年 油彩・板 69×100cm フランス、個人蔵  
© Archives photographiques Maket Expert



展示会場風景



## スイス プチ・パレ美術館展 印象派からエコール・ド・パリへ

スイスのジュネーヴにあるプチ・パレ美術館が収蔵する19世紀後半から20世紀前半にかけてのフランス近代絵画をご紹介する展覧会です。プチ・パレ美術館は、1968年、実業家であ



モーリス・ドニ《休暇中の宿題》  
1906年 油彩・カンヴァス 94×73cm  
ASSOCIATION DES AMIS DU PETIT PALAIS, GENEVE

り、熱心な美術蒐集家でもあったオスカーゲーズ氏が自身のコレクションを公開するために創設した私立美術館です。同館のコレクションは世紀転換期のフランス絵画に焦点を定めていますが、この時期のパリでは、印象派や新印象派、ナビ派、フォーヴィズム、キュビズム、エコール・ド・パリなどのさまざまな絵画運動が生まれ、絵画における実

験的な表現方法が探究されていました。本展覧会は、そのよ

うな近代フランス絵画の流れを、38名の画家による油彩画65点という充実したラインナップによって展望するものです。

プチ・パレ美術館は、ルノワールやユトリロといった有名な作家に加えて、あまり知られていない作家たちによる優れた絵画も数多く収蔵しています。ここには、もっぱら自身の審美眼により作品を選んだゲーズ氏の信念が強く反映されています。有名な画家の高価な作品を集めのではなく、過小評価されてきた画家たちを発見し、世に出すことの意義を見出しました。また、ユダヤ系のゲーズ氏は二度の世界大戦を背景に波乱に満ちた人生を送り、それゆえプチ・パレ美術館の活動の基盤として、「平和に奉仕する芸術」という信条を掲げました。同館はゲーズ氏の逝去後、現在まで休館しているため、本展覧会はその収蔵品をまとった形で見ることができる貴重な機会となりました。また通例の作品リストに加え、章解説と出品作家一覧を掲載した「鑑賞ガイド」、小



オーギュスト・ルノワール  
《詩人アリス・ヴァリエール=メルツバッハの肖像》  
1913年 油彩・カンヴァス 92×73cm  
ASSOCIATION DES AMIS DU PETIT PALAIS, GENEVE

学生向けの「ワークシート」を配布することで、鑑賞後に展覧会の内容を再確認できる資料の充実を図りました。



展示会場風景

### 【展覧会データ】

展覧会名 | スイス プチ・パレ美術館展  
印象派からエコール・ド・パリへ  
会 期 | 2022年7月13日(水)～10月10日(月・祝)  
主 催 | SOMPO美術館、フジテレビジョン  
協 賛 | SOMPOホールディングス  
特別協力 | 損保ジャパン  
後 援 | 在日スイス大使館、新宿区  
企画協力 | ホワイトインターナショナル

## 2022年度の鑑賞教育活動

新宿区立小中学校を対象とした「対話による美術鑑賞教育」支援事業は15年目を迎えました。コロナ禍での鑑賞会も2年目となり、学校・教育委員会とも協議を重ねながら、子どもたちにとって安全な環境を整えつつ、新たな取り組み(授業後の「ふりかえり」)にも挑戦しました。

2022年度は小学校29校(全29校中)・中学校7校(全10校中)の授業支援をする

ことができました。また、コロナ禍で中止をしていた一般来館者を対象とした「対話による鑑賞会『ギャラリー★で★トーク・アート』」、および夏休み特別企画『ふあみりー★で★とーく・あーと』を3年ぶりに復活開催し、「見る」だけでなく「言葉」を使って作品鑑賞を楽しんでいただきました。

ボランティアガイドスタッフは今年度14期生8名が新たに加わり、総勢78名で活動を行いました。研修会はオンラインと対面のそれぞれの良さを取り入れ、ガイドスタッフ内の交流を大切にしながら、充実したプログラムになるよう心がけています。



# 英国キュー王立植物園 おいしいボタニカル・アート 食を彩る植物のものがたり

ボ

タニカル・アートとは、科学的な研究のために細部まで正確かつ緻密に描いた植物画を指します。17世紀から18世紀を中心に、大航海時代や啓蒙主義を背景とした植物学への関心と共に急速に発展しました。写真術が普及した現在も、審美的・学術的観点から描かれ、多くは花々を描いたものが注目されています。本展覧会は英國のキュー王立植物園の協力のもと、野菜や果物、茶、コーヒー、ハーブなど、食料や飲料となる植物に特化したボタニカル・アートの展覧会です。

この展覧会では作品と共に、植物（食物）にまつわる歴史的背景や物語を随所で紹介しました。また18世紀末のレシピやヴィクトリア朝の主婦のバイブル『ビートン夫人の家政読本』、ミントンやウェッジウッド、ウースターなど、イギリスを代表するメーカーによる食器やカトラリーなど、食にまつわる資料類も

ウイリアム・フッカー  
『リンゴ「デヴォンシャー・カレンデン」』  
1818年  
エングレーヴィング、アクアチント、手彩色／紙  
個人蔵  
Photo Michael Whiteway



併せて展示しました。また18世紀から19世紀のティー・テーブルやディナー・テーブルのセッティングを再現し、館内ではイギリスの伝統菓子を現代風にアレンジした再現レシピを紹介するなど、イギリスの歴史と食文化への多方面からのアプローチを試みました。  
この展覧会を機に、私たちが普段何気なく口にしている食べ物や飲み物がどのような経緯を経て食卓に上るようになったのか、思いを馳せていただければ幸いです。

## 【展覧会データ】

展覧会名 | 英国キュー王立植物園  
おいしいボタニカル・アート  
食を彩る植物のものがたり  
会期 | 2022年11月5日(土)～2023年1月15日(日)  
主催 | SOMPO美術館、日本経済新聞社  
協賛 | SOMPOホールディングス  
特別協力 | 英国キュー王立植物園、損保ジャパン  
後援 | プリティッシュ・カウンシル、新宿区  
協力 | 日本航空  
企画協力 | ブレントラスト



上：  
展示風景  
(18世紀末から19世紀初頭の  
テーブル・セッティング)

左：  
インド(カンパニー・スクール)の画家  
『チャの木』  
19世紀初め  
ガッシュ、アラビア・ゴム／紙  
キュー王立植物園  
©The Board of Trustees of the Royal Botanic Gardens, Kew

右：  
ミントン  
『ティーカップ&ソーサー』  
1870年(1869年デザイン)  
磁器  
個人蔵  
Photo Michael Whiteway



# FACE2023 グランプリ 吉田桃子 Momoko Yoshida 《Still milky\_tune #4》



1989年生まれ 大阪市在住  
2013年 第28回ホルベイン・スカラシップ奨学生  
2016年 京都市立芸術大学制作展 大学院市長賞  
アートアワードトーキョー丸の内2016 三菱地所賞  
京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修了  
2017年 個展「scene UKH ver.3」三菱一号館美術館歴史資料室・東京  
2019年 ART IN THE OFFICE 2019 受賞  
2021年 グループ展「Slow Culture」京都市立芸術大学@KCUA・京都  
2022年 個展「Pit Lo Ssence」myheirloom・東京  
IDEIMITSU ART AWARD 2022 正路佐知子審査員賞



《Still milky\_tune #4》 2022年 アクリル絵具・ポリエステル布  
112×106cm

**11** 回目となるFACE2023は、出  
品料無料の25歳以下の応  
募者が増え(356名、33.5%)

1,064作品が出品されました。四次に及ぶ  
入選審査では、個人情報(作者名、作品  
名、年齢、性別、所属など)を伏せた作品  
本位の審査が行われ、審査員が作品1点  
ずつ真摯に対峙し、挙手で入選作品81点  
を決定しました。入選者は女性55名、男性  
26名、平均年齢35.1歳。

グランプリ受賞者の吉田桃子さんの作  
品は、シルクスクリーン用のポリエステル布の

上半分に人物が描かれていて、  
下半分は上半分で使用した絵  
具が垂れています。吉田さんは最  
初に舞台装置となるマケットやマ  
ネキンを加工した人形を作り、そ  
れらを動画で撮影し、その映像の1カットを絵  
に描いています。最終的な絵画は半透明  
の布に投影されたかのような印象を受けま  
す。音楽を聴く時の高揚感と頭に浮かぶ映  
像を起点に制作しているとのことで、作品は  
映像的で、現代の人々が日常多くの時間を  
費やして見つめるスマホ画面を彷彿とさせ

ます。作品制作手法が斬新、独創的で、そ  
の現代性が評価されました。

## 【展覧会データ】

展覧会名 | FACE展2023  
会 期 | 2023年2月18日(土)~3月12日(日)  
主 催 | SOMPO美術館・読売新聞社  
協 賛 | SOMPOホールディングス  
特別協力 | 損保ジャパン  
後 援 | 新宿区

## 主な作品貸出協力

### 東郷青児と二科ゆかりの作家展

**力** メイ美術館の企画により、当館が  
収蔵する東郷の油彩画13点と、  
カメイ美術館が収蔵する二科会に  
縁のある作家達の作品で構成した展覧会。

#### 【展覧会データ】

会 期 | 2022年8月2日(火)~10月2日(日)  
会 場 | カメイ美術館  
主 催 | カメイ美術館・SOMPO美術館・河北新報社  
特別協力 | カメイ株式会社・損害保険ジャパン株式会社  
協 力 | 公益財団法人二科会  
後 援 | 宮城県・仙台市・宮城県教育委員会、  
仙台市教育委員会、他



### 倉敷市・損保ジャパン包括連携協定締結記念 東郷青児・斎藤真一 —それぞれの女性像—

倉敷市立美術館の企画により、  
同館が収蔵する斎藤真一が  
瞽女(ごぜ)を描いた作品と、当  
館が収蔵する東郷の油彩画61点・素描20  
点の計81点とを合わせて紹介した展覧会。

#### 【展覧会データ】

会 期 | 2022年10月22日(土)~12月18日(日)  
会 場 | 倉敷市立美術館 第2・第3展示室  
主 催 | 倉敷市・倉敷市教育委員会・倉敷市立美術館、  
山陽新聞社  
特別協力 | 損保ジャパン・SOMPO美術館  
後 援 | 岡山県・岡山県教育委員会、他